

目的 : 2時間以内の作図法の紹介

対象者 : テキストの作図手順を一通りマスターした方で、さらにスピードアップを目指す方

使用例 : 繰り返し視聴し、スピード感や手順の工夫、テクニックを学ぶ。
: 動画に合わせて作図をスタートし、タイムキーパーとして利用する。

視聴ポイント : ①作図のスピード感
②道具の使い方(例: 三角定規、シャーペン)
③オリジナル手順(手順の工夫)
④時短のテクニック(例: 下書き線の省略)
⑤作図後のチェックの仕方

スピードアップのための工夫例

「迷う時間」、「手が止まる時間」、「描き直す時間」を減らす

①エスキスを覚える(エスキスを見る回数を減らす)

→エスキスと作図用紙の視線の行き来を少なくする
(複雑なプランは覚えにくい、整形でシンプルな計画を目指す)

②自分で自分のエスキスを見やすくする

→作図時に迷う時間を減らす。
「開口部をマーカー」、「管理ゾーンの廊下を塗り、廊下と室の見分けをしやすい」など

③パーツを暗記しておく

→便所のレイアウト、什器、階段などのパターンを作図中に考えない

④できるだけ多くの作図練習をする

→弱点を強化するため、特に該当工程のみ繰り返し練習するなど

スピードアップのための工夫例

「迷う時間」、「手が止まる時間」、「描き直す時間」を減らす

⑤オリジナルの作図手順を確立させる

→テキストの作図手順から発展させ、自分が一番早く描ける手順にカスタマイズする

⑥できるだけ描き直しをしない(消しゴムをなるべく使わない)

→多少の線のはみ出しは許容。
消した場合は、整合が崩れるので注意

⑦作図時に、プランニングをしない

→課題条件を満たしていればOK。建築的な理想を追い求めない。
(時間のロスも大きく、整合が崩れるため)